

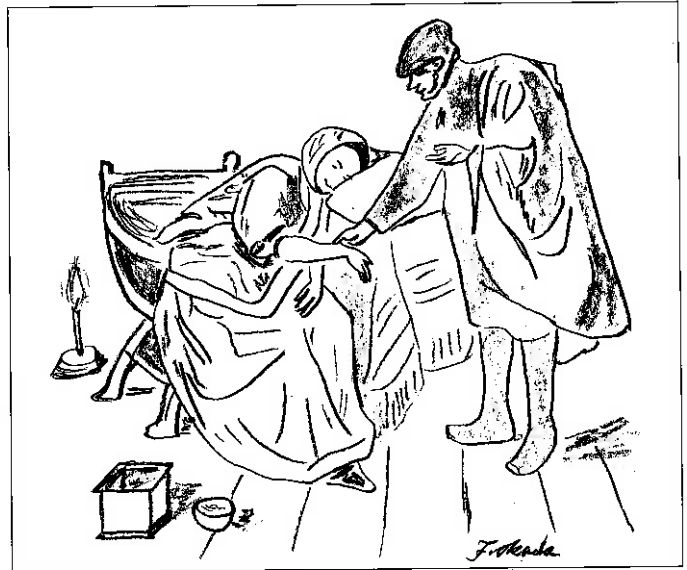
編集後記

当誌が1989年に産声を上げて以来、11年の長い年月が経過した。会員各位及び研究会での講演者からの数多くの投稿と、編集委員並びに社保学術部員のご尽力により、本誌が今日を迎えたことに感謝する。

医学とりわけ、開業医の医療を取り巻く環境も目まぐるしく変わるなかで、われわれ会員は、明日に希望を持ちつつ、限り無く進歩のある診療を続けていきたいという願いを持っている。本誌は常に純粋に学術的な立場で、今後も編集をしたいと考えている。会員各位において専門を問わず、本誌「明日の臨床」を毎日の診療の一助にしていだきたい。

従来通り、フロッピーディスク、E-Mailでも受け付けているので、今までにも増して奮ってご投稿を願いたい。

近年は心電図による脈波を読むことで、心臓の機能は細かく正確に診断出来るようになり、臓器移植迄が出来るようになった。古来、東洋医学における脈診はきわめて重要な診察方法で、脈状を術者の専門的な主観によって詳細に観察し、それを治療の方法に直結させる点が、現代医学とまったく異なるところであるが、脈診を行う部位は同じ場合が多い。万有百科大辞典によれば、漢方医学や鍼灸医学におけるこうした脈診は、非常に熟練を要する技術ではあるが、治療の方針を決めるためばかりでなく、その施術が適切であったかどうかを前後の脈の比較から判断することにも使われている。私達医師にとっても脈診は、病気の診断の原点ではなかろうか。(岡田達郎)



オランダ風俗画家ステーン (1626-79) 脈診の場景。

(アムステルダム王立美術館蔵)

編集委員 (五十音順 *印委員長)

岡田達郎*

池山 淳 城後俊明

高橋英世

堀尾 仁

明日の臨床

Vol.12 No.1

2000年12月15日発行

編集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎ (052) 832-1345

制作 ブックエンド

領価 1,000円・発行部数 6,800部